



平成20年9月豪雨による浸水状況

国土交通省中部地方整備局
木曽川上流河川事務所
揖斐川第二出張所



大澤事務所長（右）へ要望書を手渡す
名和日新連合自治会長（左）

『杭瀬川改修事業の早期完成を！』

地元期成同盟会が国に要望書

- 杭瀬川沿川5地区の連合自治会で組織する杭瀬川河川改修促進期成同盟会（会長：名和哲彦・日新連合自治会長）は9月29日（月）、国土交通省木曽川上流河川事務所を訪れ、杭瀬川の河川改修事業について要望活動を行いました。岐阜県議会議員の猫田孝氏、岩井豊太郎氏、大垣市議会議員の林新太郎氏、石田仁氏、日比野芳幸氏らが立ち会う中、名和会長から、大澤健治木曽川上流河川事務所長へ要望書を手渡しました。

- 挨拶に立った名和会長は、「当地域は水害の常襲地帯であり、近年だけでも平成20年、24年と浸水被害が発生している。昨年9月には時間108mmの記録的大雨を経験し、住民はいつ襲われるかわからない水害に対して増水のたびに不安を募らせており、一日も早い堤防嵩上げ増強工事の早期完成を！」と訴えました。合わせて、流水の阻害となっている河川内に生い茂る樹木の伐採や、県道塩田橋の架替工事についても早期着工を！と要望項目の実現に向け特段の配慮を求めました。

これらの要望に対し、大澤健治事務所長は、「御要望をいただいた事項については、今後も計画的に進めることを予定している。県道塩田橋の架替えについては、地元や関係機関とも調整を図りながら、鋭意、協議を進めてまいります」とコメントしました。

この後、一行は国土交通省中部地方整備局（名古屋市中区三の丸）を訪れ、小林克治河川情報管理官へ同様に要望書を手渡しました。



要望事項を聞き入る中部地方整備局の幹部職員ら